

尼崎市総合文化センター

魚へのまなざし — 長嶋祐成と大野麥風 —

開催期間：2023年5月27日（土）～2023年7月2日（日）



【企画展の目標】

- 二人の画家が描いた魚の絵の鑑賞を通して、多様な生物が棲む日本の海について関心をもってもらい、理解を促す。
- 尼崎の海の歴史を伝える資料の鑑賞を通して、漁業や運搬によって海とともに発展してきた尼崎の歴史を知ってもらう。
- 出品アーティストが魚や海の魅力を語るトークや尼崎に棲む魚の観察や魚を描くワークショップを実施し、参加者の理解を深める。
- 野外プログラムを通して、尼崎の海の豊かさや海の環境保全に取り組む団体の活動などを紹介し、参加者に環境保全の意識を高めてもらう。

1. 企画展示の内容

- 開催期間：2023年5月27日（土）～2023年7月2日（日）
- 開催場所：尼崎市総合文化センター美術ホール
- 入場者数：1,866人



尼崎市総合文化センター 外観写真



企画展会場入口の写真

第1章 魚に魅せられた二人の画家

大野麥風と長嶋祐成が魚の絵を描くことになった経緯や描き方を画材などもあわせて紹介。



作品とともに展示ケースで日本の水族館の
黎明期の資料を展示



長嶋祐成氏が描くときに用いる画材と
魚のスケッチを展示

第1章では、作家が魚に関心を抱いたきっかけや時代的背景などを解説パネルや資料で紹介するとともに、表現方法がわかるよう画材も展示するなど工夫した。版画と水彩画という異なる絵画を同時に展示することで表現や色彩の違いが引き立ち、海に棲む魚たちの生命感を感じ取れるよう、工夫した。

第2章 尼崎の海でみられる魚

尼崎が面する大阪湾近郊に棲息する身近な魚を紹介。



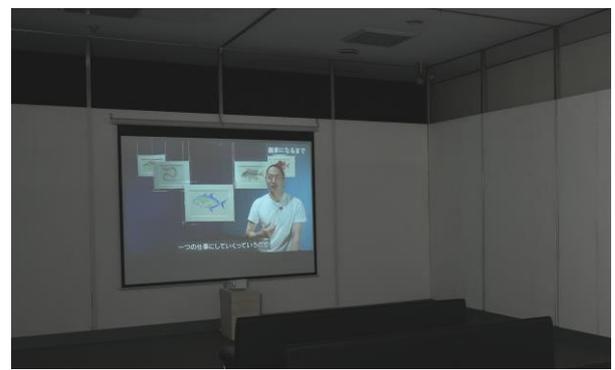
尼崎の海でみられる身近な魚たち



魚が棲む場所の特徴も捉えた大野麥風の作品



魚の生息域や生態に関する解説キャプションを付記

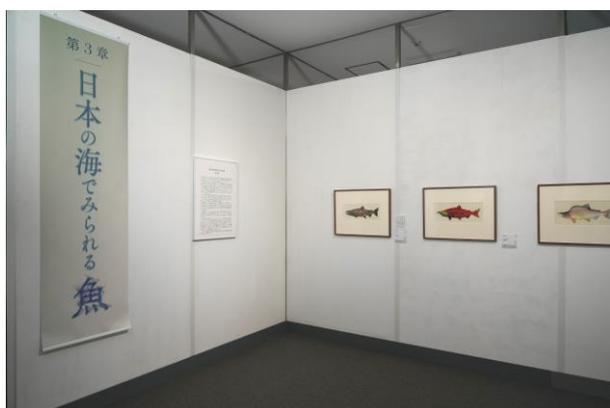


出品作家による解説映像

第2章では、尼崎を含む大阪湾の身近な魚たちを紹介し、鑑賞者が身近に感じられるよう工夫した。

第3章 日本の海でみられる魚

日本近海に棲息する魚を「北の海」「本州の海」「南の海」のコーナーに分けて紹介。



北の海でみられる魚たち



産卵期に体色が変化する魚種の対比展示



魚が泳いでいるような空間展示



南の海でみられる魚たち

第3章では範囲を広げて日本を囲む北から南の魚たちを紹介し、地域性の特性がわかるようにした。また南の海のコーナーは魚が泳いでいるように空間展示を行い、豊かな海への想像力を掻き立てられるようにした。

第4章 尼崎の海の歴史

海とともに発展してきた尼崎の歴史を発掘資料、漁具や書物、模型などで紹介。



尼崎における海と人との関わりを紹介



紹介されることが少ない漁具も展示

第4章は海とともに発展してきた尼崎の歴史を出土品や漁具など資料展示で紹介し、あまり目にする事のない漁具などが思いのほか好評であった。また、江戸時代に書き記された『尼崎産魚』に登場する魚たちのパネルと現在の尼崎の海での活動紹介パネル展示は、昔と今の海の変わらない部分と変わった部分をとらえることができるよう配慮し、環境保護に関心を持ってもらえるような内容とした。

【来館者の声】

- 関西の海・川以外にも見聞を広げられ(北海道～沖縄)よかった。
- 魚の絵を地域ごとにまとめているのが良いと思う。日本国内でも場所によって全然魚の趣きが違うことがよく伝わると思う。
- 海を表現した展示がすごいと思った。
- 海が少し苦手であり知識が無かったが、絵を通して海を感じることで苦手意識が減って今まで知らなかった事にも興味が湧いた。
- 尼崎の漁業(第4章)もっと大阪湾の歴史資料を学んでいかないといけないと感じた。
- 江戸時代や昔の資料も一緒に展示してあってよかった。
- 普段食べている魚が、時期などによって色が変わったり形が変わったりして、すごい生き物なんだなと感じた。

※上記写真等は特別な許可を得て撮影されたものです。無断転載等はいけません。

2. 関連事業の内容

■長嶋祐成アーティストトーク

【開催日時】2023年5月27日（土） 15:00～16:30

【開催場所】尼崎市総合文化センター ギャラリーアルカイック

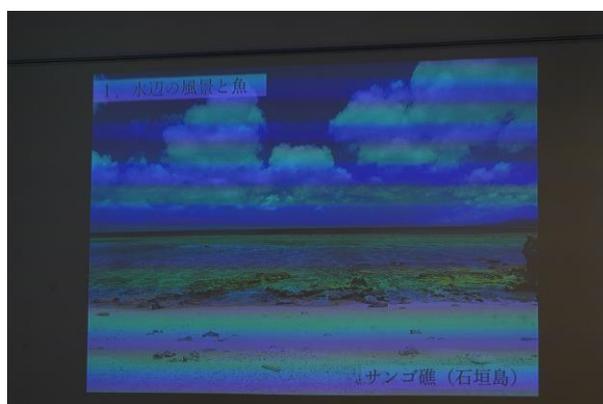
【参加者数】29名

【実施内容・目的】

- 出品作家の長嶋祐成氏に、在住している石垣島での生活と描く対象である魚たちについて語ってもらった。
- 出品作品の魚たちが棲む環境を解説してもらうことにより、展示作品への理解を深めることができた。



講師の長嶋氏が石垣島での生活を紹介



石垣島のサンゴ礁の様子



サンゴ礁に棲む魚を紹介



展覧会にも絵を出品している「ドンコタナバタウオ」

石垣島の水辺の風景（サンゴ礁、マングローブ、夜の海、川、港）それぞれの場所で見られる魚たちの解説とともに、多様な魚たちの生態を知ることにより、自分の知らない何か、「他者」への想像力を広げてくれるのが魚たちであるというお話を伺った。

【来館者の声】

- お話を聞いて魚への関心がより一層強くなった。
- 人それぞれの関わり方が海に対してある。その過程には地域の文化が基盤だということ。
- まだまだ知らない魚を絵(展覧会)を通じて広めてほしい。

※上記写真等は特別な許可を得て撮影されたものです。無断転載等はいけません。

■長嶋祐成ワークショップ

【開催日時】① 2023年5月28日(日) 15:00～16:30

② 2023年7月1日(土) 13:00～16:00

【開催場所】尼崎市総合文化センター コミュニティルーム

【参加者数】① 16名 ② 16名

【実施内容・目的】

- 尼崎の海で釣った魚を水槽に入れて間近に観察しながら、作品制作を行った。



長嶋氏が普段使用する画材に挑戦



魚の形について解説



尼崎で釣れた魚をしっかり観察



型紙で切り抜くと色彩豊かな魚たちが現れる

水彩絵の具で参加者が自由に色や模様を描いたあと、長嶋氏が尼崎の海に棲む魚を選んで作った型紙を使って魚の形に切り抜いて台紙に貼る方法で制作した。小さな子どもから大人まで身近な魚を観察しながら生態を学び、描くことの楽しさを学ぶことができた。

【来館者の声】

- 海にはいろいろな色があることを学んだ。
- つくったものが、ほんとうの魚みたいだなとかんじた。
- 自由に画用紙に絵をかけた。海を大切にしたいと思った。
- いろいろなさかなをいっぱいおしえてくれてよかった。

■学芸員による作品解説会

【開催日時】① 2023年6月10日（土）15:00~16:00

② 2023年6月24日（土）15:00~16:00

【開催場所】尼崎市総合文化センター 美術ホール

【参加者数】①10名、②11名

【実施内容・目的】

- 展覧会の趣旨と章ごとの内容、個別の作品について解説を行った。
- 二人の画家の描き方の特徴とともに魚の生態について作品や資料を前に話すことで理解を深めてもらった。



大阪湾に棲息する魚種について解説



描き方について解説



南の海に棲息する魚の特徴を解説



出土品や漁具で尼崎の海と人々の暮らしを紹介

章ごとに解説し、各章のテーマの理解を促した。第1章で画家の魚の描き方の特徴などを詳しく解説し、第2章で身近な大阪湾の魚を紹介、第3章では日本近海に棲息する魚へと、より広範囲に見ていただき、第4章では海を取り巻く歴史を学んでいただくことにより、現在の私たちの海との関わりについて考えていただく内容とした。

【来館者の声】

- 二人のスズキの絵の展示の比較が印象に残った。
- 展示解説で尼崎の工業地帯のイメージが変わった。
- 弥生時代のイダコツボがよかった。水質の改善が必要だと感じた。

※上記写真等は特別な許可を得て撮影されたものです。無断転載等はいけません。

■「魚釣りゲーム」

【開催日時】① 2023年6月3日（土）10：00～17：00
② 6月4日（日）10：00～17：00

【開催場所】尼崎市総合文化センター 美術ホール

【参加者数】① 13名、② 66名

【実施内容・目的】

- 出品資料の『尼崎産魚』に記載されている江戸時代に尼崎の海に棲んでいた魚の絵のカードを釣り上げて記録シートに記入し、解説パネルで答え合わせをした。



夢中に遊ぶ子どもたち



クリップに引っかけて釣り上げる

『尼崎産魚』という歴史文献を活用しながら、ゲーム形式で魚の種類を楽しく学べるよう工夫した。釣り上げた魚を記入、答え合わせをする解説パネルでは、『尼崎産魚』に描かれた魚の絵と、その魚が現在の海でも棲息している様子が写真で紹介されているため、身近なところに豊かな生態系の海があることを学んでいただけるよう工夫した。

記録シートは持ち帰り可とし、ゲーム修了者には、子ども用副読本『尼崎の海を学ぼう』をプレゼントし、家庭で継続して学んでいただけるよう配慮した。

【来館者の声】

- 最後の遊べる場所でとても楽しめた(3歳)。知らない魚もたくさんあってよかった。
- 魚は色々な種類がいるんだなと思った。(8歳)
- 魚釣りゲームをして、その魚が何なのかをさがした。海を守りたいと思った。
- 1回つりをして、むずかしくてもおもしろかったから。
- 重ね塗り体験ができるスタンプがよかった。
- 身近な生き物は今も昔も変わっていないことに気づいた。

■「尼崎のお魚弁当」の販売

【開催日時】 2023年6月5日（月）12:00

【開催場所】 尼崎市総合文化センター 4階エレベーター前

【参加者数】 37名

【実施内容・目的】

- 尼崎で釣れた魚を釣り人から分けてもらうフィッシュ・シェアリングに取り組む武庫川魚港「ことぶき食堂」によるお弁当を提供し、環境保護の取り組みを紹介した。



販売開始から好調な売れ行き



白身フライと味噌煮込み



展示室を出たところで販売



飲食スペースは別のフロアに用意

展覧会に来場した方を中心に販売前から並ぶ人もおり、完売した。販売数が少なかったため、行き渡らないところもあったが、日常生活の中で取り組めるフィッシュ・シェアリングという方法を広く周知することができた。

【来館者の声】

- 海を大切にしないといけないと思った。
- 海は生命の起源。
- 食べられる場所を用意してくれてよかった。

※上記写真等は特別な許可を得て撮影されたものです。無断転載等ではできません。

■尼崎運河クルーズ

【開催日時】 ① 2023年6月18日(日) 10:00~
② 2023年6月18日(日) 11:00~

【開催場所】 尼崎運河(発着場所:北堀キャナルベース)

【参加者数】 ①8名、②8名

【実施内容・目的】

- 尼崎の海の現状や環境保護の取り組みなどについてキャナルガイドの解説を聞きながらボートで運河をめぐった。



工場地帯の物流を支える運河



北堀キャナルベース(水質浄化施設)周辺



かつて工場地帯にあったガスタンクをモチーフにしたであい橋



閘門を間近にみる事ができる

運河をめぐりクルーズの発着場所である「北堀キャナルベース」は水質浄化施設であり、ここを拠点に活動する団体のガイドから解説を聞きながらボートでめぐり尼崎の海の現状や環境保護の取り組みなどについて学んだ。

【来館者の声】

- 護岸ばかりで自然度が低いと思い込んでいた尼崎の海にも様々な生き物が居ることやそれらを保全・利用しようという活動があることを知り感心した。
- 船からいろいろな魚が飛び跳ねるのを見てたくさんいるのに驚いた。

■環境学習「尼崎の海を知ろう」

【開催日時】2023年6月18日（日）10:30～

【開催場所】北堀キャナルベース

【参加者数】18名

【実施内容・目的】

- 尼崎運河周辺の生物調査や観察、水質浄化活動を行うNPOのメンバーから、その取り組みの紹介、命の繋がりや持続可能な社会について講義を受けた。



浄化水路の水生生物を観察



すくった魚(ちちん)を観察



浄化水路の水生生物を観察



育成した海藻を乾燥させて作った肥料を使って育てた菜種の実を絞り、菜種油をつくる

「北堀キャナルベース」で浄化水路に棲む水生生物を観察した。また、浄化水路で育てている海藻を乾燥させて作った堆肥で育てた菜種から採取した実から菜種油を抽出する工程および、海の恵みの循環を学んだ。

【来館者の声】

- 貝やエビなどが水をきれいにしてくれると知って、人間ももっと環境に貢献しないといけないと思った。
- 手つかずの自然を守るだけでなく、人の生活の側で生き物と共存しようという活動も広まると良いと思った。
- 多様で美しい生物と私たちの生活が結びついていることを再認識した。

■パドルボート体験 (SUP Canal Cruising)

【開催日時】 ① 2023年6月25日(日) 9:30~
② 2023年6月25日(日) 11:00~

【開催場所】 北堀キャナルベース

【参加者数】 ①4名 ②4名

【目標・内容】

- 尼崎運河をパドルボートで巡りながら、水中生物などを間近に観察するとともに、パドルボートで運河のゴミを収集する活動などについても学んだ。



活動の拠点「北堀キャナルベース」



SUPの乗り方の指導を受ける



運河の水質などを観察する



橋の下などもくぐり抜けられる

「北堀キャナルベース」を拠点に活動する AMAGASAKI CANAL SUP のメンバーを講師に招き、運河で SUP (スタンドアップ・パドルボード) を体験しながら、水質や運河の役割などについて聞きながら水上散歩を楽しんだ。

【来館者の声】

- SUPに乗れて楽しかった。海をきれいに保ちたい。
- 尼崎の海をきれいにして、循環社会が実現できればよい。

※上記写真等は特別な許可を得て撮影されたものです。無断転載等はいけません。

【事業全体のまとめ】

本事業の「海の学び」を展示構成の中心に据えたことで、地域の海の魚、日本周辺の海の魚というテーマ設定をしやすく、展示に流れができた。作品選定にあたり、「海の学び」のテーマに賛同する作家に、在住している「南の海」の作品を描いてもらえたことで、説得力が増し充実した内容の展示となった。さらに鑑賞者に地域の海の歴史的な背景を知っていただくため、漁具や歴史文献を加えたことにより、現在の私たちがこれまで恵みを受けてきた海を未来へ引き継いでいく重要性を感じていただけたことが、アンケートなどからも伺えた。

所蔵作品・資料がない当館のような施設は、すべての展示物が借用品となるため、借用にかかる輸送費などが必要となるため、本サポートが大変有難かった。また、本展の会場記録とともに、『尼崎産魚』など、これまで書籍に掲載できていなかった地域海に関する貴重な資料を掲載し、広く知っていただく記録物としての図録も発行することができた。

関連事業も積極的に行い、子どもから大人まで幅広く楽しみながら学んでいただくよう工夫した。特に野外活動については、自然史系でない当館のような施設は行いにくいのが、本サポートの趣旨に賛同していただき、各活動団体に協力を得ることができた。

当館としては2度目のサポートを受ける機会であったが、本事業を受ける度に、展示内容の検討、関連事業の実施などを通じて、来場者だけでなく、主催者側も海を学ぶ機会となっていると感じる。専門館でない美術館・博物館にもサポートを受けることで多くの気づきがあると思われる。

3. 主な連携・協力先について

連携・協力先名称	連携・協力の内容
1. 姫路市立美術館	大野斐風作品の出品、展覧会のPR
2. 尼崎市立歴史博物館	尼崎の海に関する歴史資料の出品、解説のサポート
3. ネイチャークラブ	水質浄化講習会の開催 展覧会場での環境保全活動のパネル展示
4. 尼崎運河〇〇(まるまる)クラブ	尼崎運河 SUP 体験の実施
5. 株式会社尼漁開発	尼崎運河クルーズの運行
6. 武庫川魚港ことぶき食堂	フィッシュシェアリングによる弁当の調理・販売

4. 主な広報結果について

掲載媒体名	見出し、掲載日
1. 読売新聞「魚の姿 精緻に鮮やかに」	2023年5月28日(日)
2. 神戸新聞「魚描く2作家 写実と美学と」	2023年6月3日(土)
3. 産経新聞「魚類に魅せられた2人の画家」	2023年6月23日(金)
4. サンテレビ 地域のニュース	2023年6月10日(土)